



# 新 知 故 温

題字 道尻 誠助

八戸ロータリークラブの周年記念事業  
社会奉仕事業の現場を訪ねて

国際ロータリー第2830地区  
八戸ロータリークラブ  
著 道尻 誠助 石橋 信雄

## 目 次

はじめに	2020～21年度会長 道尻 誠助	2
「温故知新」～八戸ロータリークラブ寄贈記念品を訪ねる旅		3～9
	2020～21年度職業奉仕委員長 石橋 信雄	
周年記念事業の現場を訪ねて		
創立10周年	八戸市体育館前にブロンズ像「大氣」を建立	10
創立25周年	八戸市庁前に太陽電池時計を設置	11
創立35周年	J R本八戸駅前広場に小庭園を整備	12
創立40周年	八戸市縄文学習館にモニュメント「縄文の詩」を建立	13
創立45周年	八戸市民センター中庭に大理石像「ひまわり」を建立	14
創立50周年	八戸赤十字病院の新築を祝い記念植樹	15
創立55周年	八戸市「はっち」に車イス、ベビーカー等を寄贈	16
創立60周年	基隆扶輪社と共同で八戸市立市民病院に記念植樹	17
創立65周年	母子生活支援施設小菊荘への各種支援等	18
創立5周年、15周年、20周年、30周年		19
あの頃の思い出	創立35周年 橋本 昭一さん (第36代会長)	20～21
	創立40周年 峯 正一さん (第41代幹事)	
	創立50周年 村上 壽治さん (第51代会長)	
	創立65周年 紺野 広さん (第66代幹事)	
社会奉仕事業の現場を訪ねて		
1961年	八戸市庁前ロータリーに「友愛の鐘」等設置	22
2002年	東北新幹線八戸駅東西自由通路にモニュメントを設置	23
2006年	多目的ダム「世増ダム」に高野槇 <small>こうやまき</small> を植樹	24
その他の主な社会奉仕事業		25
あの頃の思い出	東北新幹線八戸駅開業 山田 慶次さん	26
	(2002～03年度社会奉仕委員長)	

## はじめに

八戸ロータリークラブ 2020～21年度会長  
道尻 誠助



歴史の荒波にもまれても地に足を着け、着実に堅実に物事を進めてきた八戸ロータリークラブの活動は「<sup>かたつむり</sup>蝸牛の歩み」に似ています。

一昨年の秋のことです。「本八戸駅前の妙丹柿においしそうな色っかがついてきたよ」と教えてくれたのは築館智大さんでした。行ってみると、どっさりなった妙丹柿をピーチク、パーチク啄む<sup>ついで</sup>小鳥たちでお祭り騒ぎ。見ているだけでほっこりし、しばし童心に帰ることができました。そのそばには柿の木の生長を見守ってきた記念碑が。「八戸ロータリークラブ創立三十五周年記念」と刻んであるのを見て、初めてクラブの歴史の重みを感じることができました。

八戸ロータリークラブの活動を振り返ってみますと、5年ごとの周年記念事業が13回、主な社会奉仕事業が十数回あります。今や古い時代のことを知る会員は少なくなり、先輩方が築いてこられた歴史と熱き思いを伝える必要性を痛感いたしました。

今回、「温故知新～八戸ロータリークラブの周年記念事業・社会奉仕事業の現場を訪ねて」を発行するに当たり、会報・広報委員長の広瀬知明さんには編集の一切を、また職業奉仕委員長の石橋信雄さんには現場訪問に同行していただき、写真撮影と随行文をお願いいたしました。「思い出」を寄せていただいた会員、インタビューに応じていただいた会員を含め、「奉仕の心」を頂いた皆さまにこの場を借りて感謝を申し上げます。

この小冊子が皆さまの心のどこかに記憶され、いつの日か役立つ日が来ることを期待しております。

**“ロータリーは人間の生き方であり  
善意で気取らない健全な  
そして親切的な生き方である”**

ポール・P・ハリス

## 「温故知新」～八戸ロータリークラブ寄贈記念品を訪ねる旅



八戸ロータリークラブ 2020～21年度  
職業奉仕委員長 石橋 信雄

ある4月の午後、私は道尻会長と小旅行をすることになった。

当初の企画では、桜が満開の中、八戸ロータリークラブが寄贈した記念品を見てみようということだったが、地球温暖化の影響なのか分からないが、既に桜は散り始めていた。

約束の時間に神明宮そばの「ニコニコ薬局」を訪ねると、息子さんが窓口におり、「父をよろしくお願いします」と心配そうな面持ちで迎えてくれた。「こちらこそ」と答えながら、立派なご子息と素晴らしいスタッフに恵まれた温かな雰囲気職場に、ふと会長の人徳によるものなのだろうなあと感じた。

しばらくすると、会長が来られ、「私のオーディで行こう」と案内されたが、誰が見てもトヨタのノアで、小さな旅がスタートすることになった。車に乗ると、使い終わった大きなカレンダーの裏面に目的地と寄贈品が列挙されたものを渡され、「運転するから、行く順番決めて」とのこと。私はこのやり取りに、懐かしい思い出が頭をよぎったのであった。

数年前、八戸ロータリークラブの姉妹クラブである台湾基隆RCとの交流のため台北を訪れた際、2人だけで1日観光する機会があったのだが、「行く所は全部任せるから」とミッションを伝えられ、大いに困惑したのを思い出した。カレンダーの裏面に書かれた大きな字を見ながら、まずは少し離れた所から行くことにした。

### 世増ダム完成記念植樹 高野 慎

南郷区の青葉湖を展望できる小さな公園が、最初の目的地だった。このダム湖がとてもきれいだという話は聞いてはいたが、今まで訪れたことがなかった。何度もハンドルを切り返して駐車する会長を横目に、私が運転した方が良かったかなと思っていたところ、無事到着。公園では1組の老夫婦が、静かに湖を眺めながらお弁当を食べていた。その老夫婦が食事をしているテーブルから20mほど離れた場所に、八戸ロータリークラブが寄贈した高野慎があった。



高さが4m以上あり緑の葉が力強い木で、寄贈プレートを見るとクラブ名、樹木名のほかに「世増ダム完成記念 平成18年10月12日」と記してあった。ダムが完成したのは、2003（平成15）年。八戸市と南郷村が合併したのが2005（平成17）年。当時の八戸ロータリーの皆さんが、どんな思いでこの場所を選び、この木を選定したのか。先輩方にお聞きしなければと心に刻んだ。高野慎は大きく育ち、世増ダムを静かに見守っているようであった。

後日、八戸ロータリークラブ「五十年史」を調べていると、2003年に世増ダム完成記念として、泰山木たいざんぼくを植樹したとあった。現地では、その看板を見つけることもなく、不思議な気分だった。3年後に植え替えたのだろうか。

#### 創立40周年 八戸市縄文学習館前庭モニュメント「縄文の詩」建立・寄贈トチの木・サルビアの植樹（1993～95年）

次に訪れた八戸市縄文学習館は残念ながら休館中だった。国宝の「合掌土偶」が展示されている是川縄文館に比べると、若干整備が行き届いていないのかなと感じた。お休みだったが、目的のものは前庭にあるので見学させていただいた。アプローチを歩いて30mほどの所に、創立40周年記念のモニュメントがあった。そこには「縄文の詩—大地にそそぐ—」という題と、制作された清水眞澄氏の思いが記してあった。是川遺跡から出土した壺つぼをモチーフに、是川縄文人のスピリットを表現されたとのこと。壺の文様に倣い、縄文人の美意識を表したモニュメントは、学習館の中に違和感なく、ずっとそこにあったような佇まいであった。

この学習館の前庭には、1993～95年にトチの木の植樹が行われている。94年には樹高5m、樹齢20年のトチの木2本とサルビア250本が植樹された。先ほどのモニュメントが96年の建立・寄贈であることから、この4年間は八戸ロータリークラブとして是川遺跡への支援に大きく舵を切っていた期間だと感じた。





植樹当時の写真を見ると、当クラブが植樹したことが分かる大きな看板があったようだが、現在はなくなっていた。会長と2人で前庭をさまよひ、このトチの木々が多分そうであろうと予想し、世界文化遺産に認定されることを祈って、学習館を後にした。

創立60周年 八戸市立市民病院にはなざくら花柘榴を姉妹クラブ基隆扶輪社と共同で植樹



縄文学習館の後に訪れたのは、創立60周年記念で八戸市立市民病院に植樹した花柘榴の木だった。私が入会した年度に行われた記念事業なので、よく覚えていた。正門に入ってすぐ右側の小庭に花柘榴があった。プレートには、基隆扶輪社との共同での寄贈であること、そして北宋の詩人王安石の「万緑叢中紅一点」という一節が記してあった。草むらの中にある花柘榴。「紅一点」の元になっただりであるが、日時と寄贈者だけではなく、この一節によって台湾

基隆の皆さんとの今までの関わりが伝わってくるようだ。

春を迎えて梅雨前に花が咲くとのことだが、少し元気がないように感じた。土地が合わないのだろうか。そういえば、区画整理で病院裏の公園に移植されたイチョウの木も病気になったと聞いている。これから10年、20年と紅い花を咲かせ、市民の皆さんの心を和ませる、そんな元気な姿であってほしい。

創立45周年 八戸市民センターに大理石像「ひまわり」を建立・寄贈

類家4丁目にある八戸市民センター。児童科学館、身体障害者更生館、福祉公民館、視聴覚センターと八戸市の四つの施設がある、その駐車場の中央に建立・寄贈した大理石像があった。十数年前、こちらの体育館でよくバスケットボールをしていたが、全く存在に気付いていなかった。私の少ない知識では、岡本太郎氏がデザインした太陽の塔を小ぶりにしたと言ったら制作者に間違いなく怒られると思うが、若干イメージが重なるような像であった。プレートには「友愛」「サンフラワー FILLIP SICKO」と刻まれている。

もう1枚プレートがあるが、年月の経過で文字を読み取ることができなかった。

インターネットで制作者のシッコ氏を検索すると、さまざまな大理石像が出てくる。こちらにある「ひまわり」とほぼ同じ形のものが世界のどこかにあるようだ。シッコ氏自身について調べることはできなかったが、そのような著名な方の作品がこの八戸にあるということに驚いた。どんなご縁でこの場所にこの作品を建立し、寄贈することになったのだろう。今から20年前、当時の八戸ロータリークラブの力強さを感じた。

### 創立50周年 八戸赤十字病院に記念植樹

本年度行った創立65周年記念事業、八戸市社会福祉事業団の母子生活支援施設小菊荘を訪れ、入居者の皆さんに寄贈品を活用していただいているのを確認し、次の目的地に移動した。

八戸赤十字病院の門を通り抜けて右側の庭園に、創立50周年記念として植樹した木々があった。庭園はきれいによく整備され、それぞれの木々も元気な様子だ。大きな看板があり、わがクラブが記念に植樹したことをまとめて確認することができた。ハンカチノキ、ナツツバキ、ヤマボウシ、サルスベリ、クヌギ、サンシュ、カツラ、エゴノキ。大きな看板の他にも、それぞれの



の木々に小さな札が付けられており、元気に生長しているなあと感心した。入院した患者さんが散歩した時、きっといい気分転換になるのかなあと想像し、何となく誇らしい気分になった。

### 東北新幹線八戸駅開業記念モニュメント

2002（平成14）年12月に東北新幹線八戸駅が開業したのは、とても記憶に残っている。緑色の新幹線「はやて」が八戸駅に到着した時の映像をニュースで何度も見た。八戸市民念願の新幹線駅の開業だった。そのお祝

いとして寄贈したもので、東口と西口をつなぐ自由通路の西口側エレベーター横にそのモニュメントがある。

あおもりデザイン協会会長の有谷昭男氏のデザインで蕪島とウミネコが描かれている。ロータリークラブに入会するまで、いや入会してからも全くモニュメントの存在に気付いていなかった。駅に同化しており、ずっと前からあるような佇まいだ。そういう状況ではあるが、西口では「フラット八戸」が昨年オープンし、大きなイベントが開催されれば、多くの人の目に留まることだろう。

後日、「五十年史」をひもとくと、その寄贈までの経緯が記してあった。一度、八戸市に寄贈し、その後八戸市からJR東日本に寄贈され、その際、わがクラブが同行したとのことで、とても参考になった。どういう経緯や考えで行ったものなのか、こうして残しておくことが大事だと感じた。

#### 創立10周年 八戸市体育館前にブロンズ像「大氣」を建立・寄贈



八戸駅でモニュメントを訪ね、その後駅前の喫茶店で小休止することになった。会長とチーズケーキを食べながら、クラブの寄贈品についておしゃべりをした。65年というクラブの月日が過ぎる中で、その当時のことを知っている会員はほとんどいない状況だ。こういう形で若いメンバーが寄贈品を訪ね、先輩方の思いに触れ、想像することが大事だと、会長はお話された。会長のテーマの一つである「温故知新」。こうして、実際に足を運ばなければ分からないことがあるなあ、と考えさせられた。

一息ついた後、訪れたのは八戸市体育館前のスペース。ここには、晝間弘氏が創作したブロンズ像「大氣」がある。この像は本当に立派で、長根公園を訪れた八戸市民だけではなく、さまざまな競技を通して来八された方々が目にしたことだろう。第7回日展文部大臣賞を受賞されたもので、晝間氏の代表作の一つである。また、晝間氏は題字を書かれた師匠の北村西望氏の助手として、長崎平和公園の平和記念



像の制作に従事されたそうだ。

小学生のころ、スケート靴や野球のグローブを持って、ここを友達との待ち合わせ場所にしていたのを思い出した。大人になった今でも、この力強いブロンズ像に圧倒される。八戸ロータリークラブ10周年記念の寄贈品ではあるが、これからも市民や訪れる人々に愛されるものであってほしい。

### 創立35周年 JR本八戸駅前に小庭園を造り、柿の木ほかを植樹

道尻会長との寄贈品を巡る旅も残り2カ所となった。訪れたのは、JR本八戸駅前。中心街に向かう横断歩道の手前に、目的の小庭園がある。立派な柿の木を中心にイチイ、ツツジ、サツキを植樹している。木々の中の黒い御影石と思われる石柱に、八戸ロータリークラブが寄贈したことが分かるよう表示されていた。

この柿の木は南部妙丹柿とのことで、南部藩主が参勤交代の際に福島から持ち帰り栽培したのがこの地域での始まりだとの説もある。毎年柿の実がなっていたかどうか、記憶があいまいだが、クリスマスの時期には電飾され、華やかな季節の一部を担っていた覚えがある。歴史と伝統という言葉が慣用句のように入会時に唱えることが、わがクラブの習わしのようにになっているが、その言葉の重みに触れることとなった。

### 八戸市庁前ロータリーに「友愛の鐘」「四つのテスト」銘板を設置

#### 創立25周年 八戸市庁舎前に太陽電池時計を設置

最後の目的地は、八戸市庁前ロータリーと広場であった。市庁前ロータリーにあるのは、1961年に建立・寄贈した友愛の鐘である。前年に八戸市を襲ったチリ地震による津波被害に対して、国内外のロータリアンから援助の手が差し伸べられ、その友情に応えるため、この台座が作製された。オレンジ色のその台座には、友愛の鐘と「四つのテスト」が刻み込まれている。その後、1968年の十勝沖地震の際、倒壊したそうだが、市内の土建業者の方のご厚意により復旧し、現在に至っている。

訪れた時、現場は整備工事中で、ロータリー内には入れなかったが、ロータリーの外から見る事ができた。交通量が多いため、2人ともヒヤヒヤしながらの確認であった。年数を経て、若干色あせてきてはいるが、その姿は堂々としたものであった。本八戸駅方面から中心街に上ってきて、

ロータリーにぶつかる正面に設置してある。ぜひ、皆さんに見てもらいたいと思った。



市庁前広場に設置してあるのは、創立25周年記念の太陽電池時計である。道尻会長もどこにあるのか分からないとのことで、しばしの搜索活動となった。まずは、本館前を確認していると偶然にも村井達ガバナーが記念植樹したナツツバキの木があった。多くの木々が重なりあい、今まで気が付かなかった。看板には、「2009年10月10日」、そして「この木の姿のように、八戸市がすくすくと成長することを願う国際ロータリー第2830地区2009-2010年度地区大会記念事業として、これを植樹して寄贈します」と表記されていた。十余年の歳月がすぎているが、元気な様子であった。

太陽電池時計はまだ見つからなかった。随分と前の時計なので、もしかしたら壊れて撤去されたのかなあと悲観的な発言が続く会長であった。新館前に移り、あきらめムード漂う中、横断歩道前に設置してある時計上部に何かの部品がついているのに気付き、これだ、これだと急に会長が元気になった。ちょうどオレンジ色の「友愛の鐘」と道路を挟んで向き合うように、太陽電池時計があった。今でも正確な時間を刻んでいた。中心街から駅に向かう時、必ず目にする時計だ。2人で良かった、良かったと喜び合った。

こうして、道尻会長との小さな旅は終わりを迎えた。予定していた寄贈品を一通り確認し、その当時の八戸ロータリークラブのメンバーの思いに少しだけ触れることができた。達成感でアウディ（トヨタ・ノア）も軽快に薬局へ向かって走っているようだ。

「温故知新」、会長の掲げたテーマを今回は2人だけで実践することとなったが、メンバーの皆さんにも「歴史と伝統」を体感する良い機会になると思った。

70周年、100周年…。八戸ロータリークラブは、今後どのような道を進んでいくのだろう。

## 周年記念事業の現場を訪ねて

### 【創立10周年】

式典：1965（昭和40）年7月6日

会長：村井幸吉 実行委員長：中島石蔵

記念事業：八戸市体育館前にブロンズ像「大氣」を建立・寄贈

日本芸術院会員で彫刻家の晝間弘氏による文部大臣賞受賞の名作。「み空ゆ高し、尊とけれ、大気も清く広がれ」との願いを込めて、「大気」と命名。



## 周年記念事業の現場を訪ねて

### 【創立25周年】

式典 1980（昭和55）年7月23日

会長：小瀬川吉三 実行委員長：角谷 信治

記念事業 八戸市庁前に太陽電池時計を設置

当時ではまだ珍しい太陽電池で動く時計を高さ4.5mの鉄柱に取り付けた。



## 周年記念事業の現場を訪ねて

### 【創立35周年】

式典 1990（平成2）年2月24日

会長：橋本昭一 実行委員長：吉田 昌平

記念事業 JR本八戸駅前広場に小庭園を整備し柿の木等を植樹

「花と憩いのコーナー」と名付けた小庭園を整備し、高さ5 呎の南部妙丹柿を中心にイチイ、ツツジ、サツキ等を植栽した。





周年記念事業の現場を訪ねて

【創立40周年】

式典 1995（平成7）年7月22日

会長：種市襄 実行委員長：浅水逸郎

記念事業 八戸市縄文学習館前庭にモニュメント「縄文の詩」を建立・寄贈



## 周年記念事業の現場を訪ねて

### 【創立45周年】

式典 2000（平成12）年11月8日

会長：佐々木克郎 実行委員長：種市 襄

記念事業 八戸市民センター中庭に大理石像「ひまわり」を建立・寄贈

スロバキアの若き芸術家フィリップ・シッコ氏が制作。「市民が希望と友愛の心を持って明るく幸福になってほしい」との願いを込めて「友愛の像」と命名した。



## 周年記念事業の現場を訪ねて

### 【創立50周年】

式典 2005（平成17）年10月10日

会長：村上 壽治 実行委員長：正部家 種康

記念事業 八戸赤十字病院の新築を祝って記念植樹

八戸市「是川縄文の里」整備基金寄付、記念誌「五十年史」発行、八戸三社大祭に基隆扶輪社子弟を招待、「合掌土偶」をモチーフにバナーを更新、記念講演：神 信一氏（海外投融資情報財団理事長）・演題「世界経済の潮流と日本」



## 周年記念事業の現場を訪ねて

### 【創立55周年】

式典 2010（平成22）年10月30日

会長：石橋 司 実行委員長：笹垣 正弘

記念事業 八戸市「はっち」に車イス、ベビーカー、テーブルを寄贈

基隆扶輪社子弟の八戸訪問受入事業、記念講演：藻谷 浩介氏（日本政策投資銀行  
地域振興グループ地域支援班参事役）・演題「人口の成熟に向かうアジア 人口  
成熟先進地八戸の活路」、記念誌発行





## 周年記念事業の現場を訪ねて

### 【創立60周年】

式典 2015（平成27）年10月3日

会長：接待 一雄 実行委員長：橋本 昭一

記念事業 基隆扶輪社と共同で八戸市立市民病院に花柘榴の木を記念植樹  
台湾基隆市内の小学校へ図書を寄贈、記念講演：枝広 直幹氏（元八戸税務署長、  
元財務省主計官）・演題「私が見たグローバル経済と地域経済」、記念誌発行





## 周年記念事業の現場を訪ねて

### 【創立65周年】

式典 2020（令和2）年10月24日

会長：道尻 誠助 実行委員長：種市 良意

記念事業 八戸市教育委員会こども支援センターへの壁掛け時計の寄贈、  
八戸市福祉事業団母子生活支援施設小菊荘への寄贈と支援活動（集会室  
エアコン1台、パソコン及び同附属品一式、ホワイトボード1台、花壇整備、学  
習支援）、記念講演：小田嶋 孝一氏（青森地方気象台防災管理官）・演題  
「近年の豪雨災害と警戒レベル～大雨で命を失わないために」、記念誌発行



## 周年記念事業の現場を訪ねて

### 【創立5周年】

式典 1960（昭和35）年7月6日  
会長：種市良春  
記念事業 八戸東ロータリークラブ設立

### 【創立15周年】

式典 1970（昭和45）年7月6日  
会長：滝崎清男 実行委員長：佐々木隆蔵  
記念事業 八戸北ロータリークラブ設立

### 【創立20周年】

式典 1975（昭和50）年7月9日  
会長：小松正巳 実行委員長：福地義男  
記念事業 八戸南ロータリークラブ設立、八戸市公会堂建設基金500万円  
寄贈

### 【創立30周年】

式典 1985（昭和60）年  
会長：工藤晃 実行委員長 金入清吾  
記念事業 八戸中央ロータリークラブ設立

## あの頃の思い出

### 橋本 昭一さん（1990～91年度 第36代会長）



35周年記念の実行委員長が吉田昌平さん、副実行委員長が大嶋さんで、中でも大嶋さんが花壇をつくろうと熱心に動いていました。当時、本八戸駅に仙台駅のようなペDESTリアンデッキを整備して三八城公園と結ぶ構想があつて、建設省とかも熱心だった。実現はしませんでした。八戸市中心街の玄関口にふさわしい駅にしようと、何もなかった駅前に花壇をつくったのだと思います。妙丹柿を植えたのは、南部地方を代表する柿の木だからでは。商人の世界では自宅に柿を植えるのは縁起がいいことで、八戸の発展を願ってこの木を選んだと思います。



### 峯 正一さん（1995～96年度 第41代幹事）



40周年記念事業として、是川学習館にモニュメントを寄贈することは決まっていたましたが、台座も製作するという事で、金額が予定を大幅に上回りました。前年度から記念事業に向けて会費を集め、当該年度も会費を頂戴していましたが、やはり足りないということで実行委員会でいろいろと紛糾し、最終的にはまた会費を頂くことになりました。一部の会員から不平不満が出たことから、次の橋本八右衛門さんの年度で基金管理委員会をつくり、45周年に向けて少しずつ積み立てをしていくことになりました。

## あの頃の思い出

### 村上 壽治さん（2005～06年度 第51代会長）



50周年記念事業で思い出されるのはバナーを新しくしたことです。バナーの絵は是川縄文遺跡から出土した「合掌する土偶」。当時の皇太子様をご来八の際、この土偶を見て大変興味を示され、のちに中里信男元市長がレプリカを差し上げたところ、雅子様をご懐妊されたとい

うことで大変有名になりました。

合掌土偶はロータリーと共通するものがあるのではないのでしょうか。縄文人は人間の力だけでは成し遂げることのできないことを、宇宙の生命力である神に祈ることで願いがかなえられると信じていたようです。そして、ロータリー創設者のポール・ハリスは例会に出席すると「童心に戻ることができる」と述べています。例会では楽しい仲間がいてリラックスでき、心が清く素直になり、善意の芽が育って奉仕の活力が生まれてくる。このような純粋な子どもの心、童心こそが合掌土偶の祈る気持ちと共通すると思います。



### 紺野 広さん（2020～21年度 第66代幹事）



今年度の65周年は子どもたちに目を向けた記念事業を2カ所で行いました。一つは、自閉症や心の問題で不登校になった児童の学習や復学の支援等を行っている八戸市教育委員会こども支援センターに壁掛けのからくり時計を寄贈いたしました。文字盤にはディズニーのかわいい

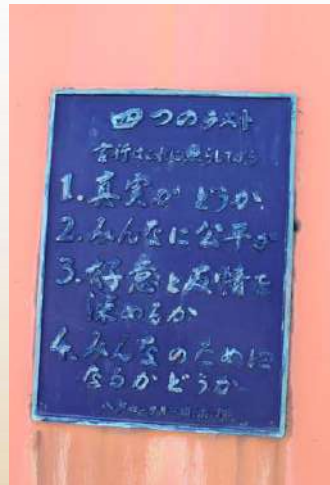
キャラクターが描かれ、定時にゆっくりした温かみのある動きのからくりが作動します。これを見ることで支援センターに通うことすらも辛いと感じる児童が心を和ませてくれることを祈念しています。もう一カ所は、経済的に再スタートを切る家庭を支援する母子生活支援施設小菊荘の入居児童の学習に寄与することを目的に、パソコン一式とホワイトボード等を寄贈いたしました。

## 社会奉仕事業の現場を訪ねて

### 1961（昭和36）年

#### 八戸市庁前ロータリーに「友愛の鐘」と「四つのテスト」の銘板設置

1960年5月にチリ地震津波が八戸地方を襲った。国内外のロータリアンから援助の手が差し伸べられ、その友情にこたえるために「友愛の鐘」と「四つのテスト」の銘板を配した台座を建立した。68年の十勝沖地震で倒壊し、69年に市内の土木建設会社の好意で復旧した。





## 社会奉仕事業の現場を訪ねて

2002（平成14）年11月11日

東北新幹線八戸駅開業を記念し、燕島ウミネコのモニュメントを八戸駅東西自由通路に設置・寄贈。モニュメントは高さ1.6m、重さ350kg



社会奉仕事業の現場を訪ねて

2006（平成18）年10月12日

多目的ダム「世増ダム」の完成を祝い、高野槇を展望テラスに植樹



## 社会奉仕事業の現場を訪ねて

### 【その他の主な社会奉仕事業】

**1969（昭和44）年2月22日**

八戸市庁屋上にオルゴール時報機を設置

**1972（昭和47）年**

八戸市に大時計と花菖蒲3000株を寄贈

**1979（昭和54）年11月12日**

八戸市福祉事務所に寝たきり老人用の毛布300枚を寄付

**1990（平成2）年**

八戸市内の五つのロータリークラブが合同で八戸警察署の交通安全標語看板を更新

**1993（平成5）年10月30日**

エイズシンポジウムを開催し、一般市民や高校生ら300名超が参加

**1994（平成6）年6月22日**

八戸市縄文学習館にトチノキ2本とサルビア250株を植栽。トチノキの植樹は93年から95年まで3年間続いた

**1998（平成10）年5月1日**

八戸市庁別館完成を祝い、庁舎を取り囲む幅80㍍、長さ44㍍の花壇に植樹

## あの頃の思い出

山田 慶次さん（2002～03年度 社会奉仕委員長）



今から20年ほど前の2002年12月に東北新幹線八戸駅が開業しました。八戸市民が長年待望した慶事に合わせ、八戸ロータリークラブは記念のモニュメントを寄贈しました。その経緯を振り返ってみます。

02年3月に小泉忠男次期会長より新幹線八戸駅開業に向けての記念事業を次期社会奉仕委員会として検討するよう指示があり、早速、次期委員会メンバー（山田慶次、北澤美達、葛西務、原田紀彦）で過去の記念事業を調査、植樹とモニュメントの寄贈等およその記念事業のイメージを把握しました。八戸市から「全国に八戸市を発信できる物」、JR東日本から「生き物と価値の分かる物以外であればよい」との意向を確認し、クラブ役員と検討の結果、八戸市をモチーフにした置物にすることになり、具体的な準備作業に入りました。

02年7月の小泉年度スタートに当たり、例会で記念事業の内容を発表。モニュメントはウミネコをモチーフにした直径1疋の鋳物絵皿で、素材は南部鉄、製造は地元の鋳物工場と、地元にごだわった形で製作を始めました。

JRから設置場所を東西自由通路の西側に決めていただき、11月11日に小泉会長から中村寿文八戸市長への寄贈式、11月21日には中村八戸市長からJRへの寄贈式を実施し、いずれもテレビや新聞で取り上げられ、八戸ロータリーのPRにもなりました。そして12月1日の八戸開業以来、モニュメントは八戸駅を訪れる全国の方々に八戸のイメージを発信し続けています。





八戸ロータリークラブ創立65周年記念式典で、  
八戸市社会福祉事業団の高島司理事長に小菊荘  
支援の目録を手渡す道尻誠助会長（左）＝2020  
年10月24日、八戸グランドホテル

---

## 「温故知新～八戸ロータリークラブの周年記念事業・ 社会奉仕事業の現場を訪ねて」

2021（令和3）年6月30日

編集：八戸ロータリークラブ会報・広報委員会  
発行：八戸ロータリークラブ 会長 道尻誠助

---